

2024 年における松川浦の底質分布

福島県水産資源研究所 資源増殖部

1 部門名

水産業—その他—アサリ・ヒトエグサ

2 担当者名

舟木優斗

3 要旨

松川浦内ではヒトエグサ養殖とアサリ漁業が営まれており、これら内湾性の水産生物にとって底質環境は重要である。アサリ稚貝の着底量は泥分率(粒径 $63\mu\text{m}$ 以下の粒子の体積比)20%以下で多くなり、30%を超えると減少することが報告されている(日本水産資源保護協会 2007)。2024 年現在の底質分布を震災前(1996 年)と比較して評価したところ、北西部の泥分率が上昇し、南西部の泥分率が低下していた。

(1) 2024 年に、松川浦内 61 地点で採泥し、レーザー回析式粒度分析装置を用いて粒度組成を求めた。これらの結果から、採泥地点の緯度経度と泥分率を用いてコンター図を作成した。

さらに、震災前である 1996 年のデータを用いて同様にコンター図を作成し、比較した。

(2) 2024 年は北西部の泥分率が上昇していた一方、南西部の泥分率が低下しており、また、局所的に泥分率の高い地点がみられた。

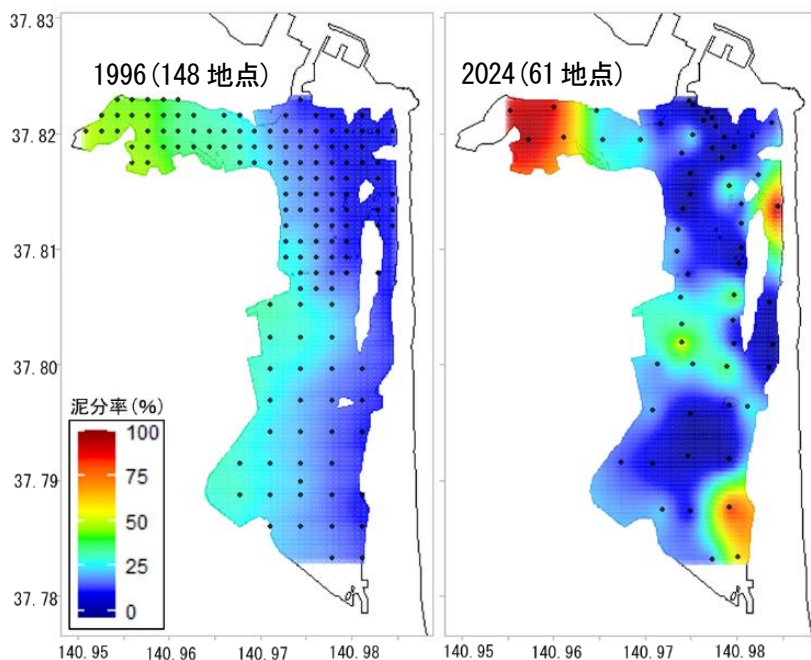


図1 1996年及び2024年の底質分布

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～令和7年度

(2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

5 主な参考文献・資料

(1) 日本水産資源保護協会(2007). 水産基盤整備実証調査(アサリ). 平成19年度水産基盤整備調査委託事業(調査報告書).